

特集 「まさか」の時はやってくる。01

突然の

豪雨

「日常」の風景が一変した「非常」事態。2か月分の雨が集中した3日間。豪雨の脅威が突然襲ってきました。

始 まりはいつもより少し強い程度
の雨でした。7月6日、前日からの雨はやむことなく、気づけば道路は冠水。家屋にも水が迫る豪雨となっていました。福智町で5日から3日間降り続いた雨は昨年7月の降雨量1月分の倍以上にあたる423mmを記録。町として初の避難勧告と避難指示が発令され、最大252人が避難する非常事態となりました。

神崎では^{たまりがわ}泌川が氾濫し、広範囲にわたり冠水。日常的に利用される主要な道路も通行止めが多発。水没により廃車となるケースも続出しました。また赤池の草場地区では強い雨で彦山川につながる水門が閉鎖され、地域を流れる支流が氾濫。水は腰の高さまでおよび、避難の遅れた2件の住宅が孤立する事態となりました。

日頃から強い雨が降ると冠水することも珍しくなかった草場地区。住民の皆さんに避難を呼びかけた日高区長は「備えはしていたつもりだったが、想像以上の速さで水が迫り、救助の間も絶えず水かさが増えていった」と当時の緊迫した状況を振り返りました。

今回の豪雨は誰もが予期しなかった「まさか」の出来事。災害は想像を超えて私たちに襲いかかります。「この町は災害はない」「自分の家は大丈夫」と楽観視せず、常に最悪を想定する危機意識を持ち、緊急事態に対応できる「備え」をすることが自身を守ることにつながるのです。

「気づいたときには水が迫っていた。なすすべもなく救助を待つしかなかった。」



赤池6区(草場)区長
District Leader **日高 一雄**さん
早めの避難を呼びかけたつもりでしたが、想像以上の水足の速さに驚きました。冠水に慣れていた部分もありましたが、今回の災害を経て、日頃の備えの重要性を痛感しました。

17:10

県内全域に大雨特別警報発令

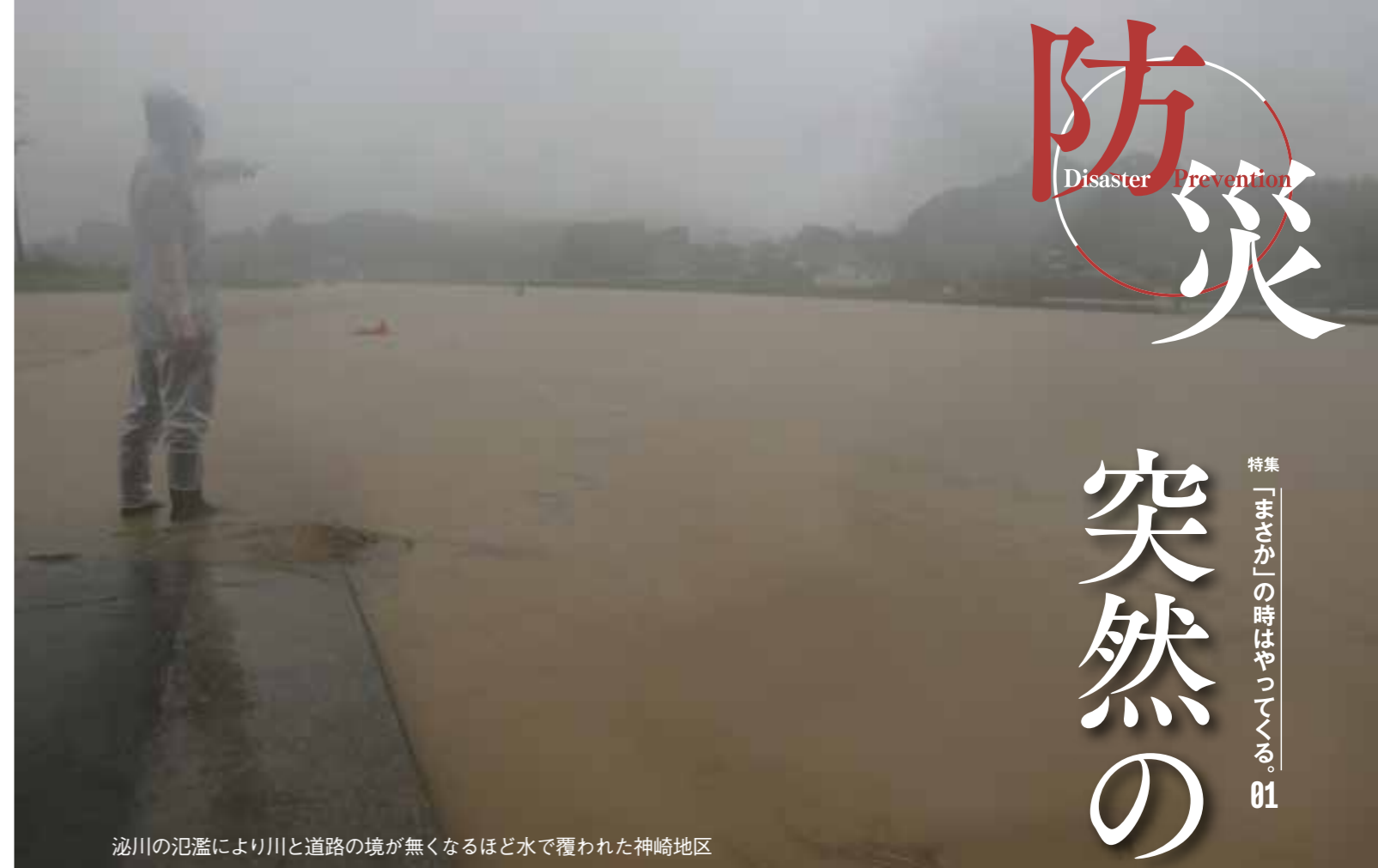
50年に一度の降水量予想を知らせる「特別警報」。その発令により、町全体の緊張感が急激に高まりました。



16:20

斜面から流れ込む水 高尾地区で家屋浸水

山の斜面に面した高尾地区の住宅地では水が流れ込み、家屋への浸水が発生。土砂災害の可能性も高まり、各地で多発する緊急事態に職員も警戒を強めました。



泌川の氾濫により川と道路の境が無くなるほど水で覆われた神崎地区

7/6 15:50

強く降り続く雨 宝見保育園浸水

雨足が強まる中、保育園浸水の連絡を受け職員が現場に急行。土のうを搬送し流入防止を図りました。町内小中学校でも早期下校が決定するなど危険は迫りつつありました。



17:20

浸水で草場地区が孤立。地域総出で7人を救出。

草場地域は広い範囲で冠水し、2件が孤立。水かさを増す濁流で足元が全く見え、到着したレスキュー隊員も救助に苦戦する状況でした。その中で近隣住民からボートを借り受けるなど地域と協力した救助が行われ、無事7人が救出されました。

